

# 平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 16 年 1 月 30 日

上場会社名 株式会社ケンウッド

(コード番号: 6765 東証・大証 第 1 部)

(URL <http://www.kenwood.com>)

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役社長 兼 CEO 河原 春郎  
責任者役職・氏名 業務統括部 株式法務室長 和久 雅宣

TEL (0426)46-6816

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度における: 有・**無**  
認識の方法との差異の有無

## 2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況 (平成 15 年 4 月 1 日~平成 15 年 12 月 31 日)

(1) 連結売上高 (百万円)

	第 3 四半期	9 ヶ月通算	[参考] 通期
平成 16 年 3 月期	44,464	132,659	-
平成 15 年 3 月期	-	-	225,579

(注) 1. 売上高の数値は監査法人による監査を受けておりません。

2. 四半期業績開示は当期より実施しておりますので、前年同四半期、同通算の実績の記載、並びに比較は行っておりません。

### [業績の概況]

当第 3 四半期(平成 15 年 10 月~12 月)における当社を取り巻く環境は、イラク情勢や新型肺炎 SARS の影響が一応の収束をみた中、国内における企業業績の改善や株式市場の持ち直し、米国経済の回復傾向、アジア・中国経済の活況など、上半期に引き続いて一部に明るい材料が見られました。しかし、総じて個人消費の回復力に乏しく、急激な円高の進行なども相まって、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

当社における第 3 四半期は、主力事業であるカーエレクトロニクスの新商品群が世界各地で導入される第 4 四半期を控えた現行商品のクローリング期にあたり、特に収益性が他の四半期に比べて低くなる季節要因があります。そのような中、当第 3 四半期は、前年同期の構造改革による携帯電話機(PDC)事業の終息やホームエレクトロニクス事業の構造改革による売上減を主体として、さらには欧米を中心にオーディオ市場が 10~15%も縮小したことに円高が加わり、売上高は前年同期の水準を下回ったものの、収益は事業構造改革と生産革新の効果によって前年同期以上の水準となり、9 か月通算では上半期に引き続き過去最高のペースで推移しています。

第 4 四半期の売上高は、円高の影響が引き続き懸念される中でも構造改革がほぼ終了した前年同期とほぼ同水準を見込んでおり、カーエレクトロニクスおよびホームエレクトロニクスの 2004 年モデルの市場での評価、導入の盛り上がり期待しています。

### [セグメント別売上高]

(百万円)

	平成 16 年 3 月期 第 3 四半期		平成 16 年 3 月期 9 ヶ月通算	
	金額	構成比	金額	構成比
カーエレクトロニクス事業	22,292	50.1%	73,538	55.4%
コミュニケーションズ事業	12,703	28.6%	37,044	27.9%
ホームエレクトロニクス事業	8,442	19.0%	19,172	14.5%
その他	1,027	2.3%	2,905	2.2%
合計	44,464	100.0%	132,659	100.0%

[ご参考] 連結経営成績の進捗状況 (百万円)

	平成 16 年 3 月期	
	第 3 四半期	9 ヶ月通算
売上高	44,464	132,659
営業利益	2,120	8,045
経常利益	1,670	5,640

(注) 1. 各数値は決算期のような会計上の修正を行っておりません。また、監査法人による監査を受けておりません。

2. 四半期業績開示は当期より実施しておりますので、前年同四半期、同通算の実績の記載、並びに比較は行っておりません。

[収益に関する補足説明]

当第 3 四半期の収益は、カーエレクトロニクス事業において欧米および国内向けの現行商品がクローゼング期を迎えたことに加え、市場縮小による影響も受けましたが、コミュニケーションズ事業では厳しい外部環境にもかかわらず引き続き堅調に推移しました。また、ホームエレクトロニクス事業では事業構造改革や生産革新の効果が顕著に表れ、国内で秋発売の新商品群が好調だったことも相まって、収益性が大幅に改善し、黒字化を果たしました。

この結果、前述のように売上が減少したにもかかわらず、連結営業利益が 21 億 20 百万円、連結経常利益が 16 億 70 百万円と、前年同期以上の水準となりました。また、9 ヶ月通算では、連結営業利益が 80 億 45 百万円、連結経常利益が 56 億 40 百万円と、上半期に引き続き過去最高のペースで推移しています。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

3. 平成 16 年 3 月期の連結業績予想 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日) (百万円)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1 株当たり 予想当期純利益
通 期	185,000	12,000	11,000	51 円 51 銭

(注) 平成 15 年 11 月 14 日発表の業績予想と変更ありません。

[業績予想について]

今後の経営環境は、国内において企業業績の改善や株式市場の持ち直し、個人消費の回復傾向が見られるものの、本格的な景気回復や為替変動の動向などに対する先行きの不透明感が拭えないうえ、欧米においても景気回復の遅れが懸念されるなど、楽観視できない状況にあります。

当社における第 4 四半期は、主力事業の新商品群が世界各地で導入されることを受けて年間を通じてもっとも収益性の高い時期であり、カーエレクトロニクス事業を中心に、好調なビジュアル・ナビゲーション分野をはじめとした新商品群の本格的な投入効果を織り込んでおり、平成 15 年 11 月 14 日に発表した業績予想の達成を目指して強力に取り組んでおります。

以 上